

12月も役立つ講座がいろいろ!

シングルマザーの会

◆12月9日(日) 13:30~15:30
 場所: 参画センター 相談室
 参加費: 無料 託児: あり(要予約)

摂食障がい家族の会

◆12月15日(土) 13:30~15:30
 場所: 参画センター 相談室
 参加費: 無料

子育ておしゃべりサロン

◆12月20日(木) 10:00~12:00
 場所: 参画センター 学習研修室1
 参加費: 無料 託児: あり(要予約)

知ってる?

男女共同参画のキーワード

「SOGIハラ」を知っていますか

SOGI(ソジ)という言葉を知っていますか。これは、好きな人の性別「性的指向(Sexual Orientation)」と自分の性別がどの性別であるかという「性自認(Gender Identity)」の頭文字を取った言葉。ハラスメント全般に関心が高まる中、これらに関する嫌がらせ「SOGIハラ」についても理解を深めようという動きが広がっている。

例えば同性愛者や心と体の性が違うトランスジェンダーの人に対し、「男のくせに女々しくするな」と言ったり、ホモやオカマ等の蔑称で呼んだりすることはSOGIハラに当たる。

SOGIはすべての人の属性であり、だからこそ、LGBTとLGBTではない人を比べたときに、一方には権利があり、他方にはそれが無いという不均衡が生じている。「LGBTという人たちを守りましょう」ではなく、「全ての人々がもっているSOGIという属性にかかわらず、平等に対応しましょう」という意味でSOGIは使われているのだ。

連合(*注1)が2016年に20~59歳の労働者を対象に実施した調査では、LGBTは8%に上った。12~13人に1人の割合だ。具体的に何がハラスメントになるか漫画で説明したチラシを地方組織に配るなど啓発にも力を入れている。また、1月には厚生労働省が、企業が労使間の取り決めをひな型にする「モデル就業規則」に性的指向・性自認へのハラスメント禁止を新設。経団連もLGBTへの理解促進を提言するなど、取り組みが増えている。 (*注1日本労働組合総連合会)

(参考資料: 女性情報、NHKハートネット、woman type 等)

予告

市民企画講座

◆1月12日(土) 13:30~16:00
 内容: アディクションフォーラム&体験発表
 「アディクションと家族機能・支援について~関係性について」
 講師: 東山 良子さん
 (精神保健福祉士・家庭機能研究所所長)
 場所: 参画センター研修室3
 参加費: 700円 定員: 40人(先着順)

人生100年時代の生き方を考える講座

◆1月18日(金) 13:30~15:00
 内容: 「人生のフシづくり、新たな気分スタート!」
 講師: 倉本 英雄さん(香川県ヨーガ協会)
 場所: 参画センター学習研修室3
 参加費: 無料 定員: 60人(先着順)



教育現場では、「統計上ではどの学校、どのクラスにも一定数のセクシュアルマイノリティーの子どもたちがおり、学校側の理解が不足していると、そういった子どもたちが取り返しのつかないダメージを負ってしまう」と指摘。文部科学省はこの点について、2015年に「セクシュアルマイノリティーの子どもたちの心情に配慮した対応をすべき」という通知を各学校に出している。こうした背景には、「女性あるいは男性はこうあるべき」という社会の規範意識が学校や家庭で教師や親の口から伝えられたり、友人間で広がっていったりすることで、そこから外れる人々を攻撃するような価値観が子どもたちに広がってしまう可能性がある、と警鐘を鳴らしている。

SOGIハラをしないために、また「SOGIハラかも」という場面に遭遇したとき、私たちはどう行動すればいいのか。

まずは自分自身がSOGIハラに加担しないようにする。SOGIハラかも?という場面に遭遇しても、場の雰囲気や上下関係などでその場で指摘したりできない場合は、スイッチャーの役割をしてはどうか。当事者が攻撃されている場面では自分は攻撃しないで、当事者が帰るときに「さっきの嫌じゃなかった?」などと声掛けすることで、みんなが敵じゃないよと当事者に伝え、「シェルター(避難所)」になってみる。また、「LGBTについての嫌悪や悪口をネットに書いたりせず、他者に言わないことを積み重ねていくことだけでも差別を減らすことにつながるだろう。

(参考資料: 女性情報、NHKハートネット、woman type 等)

11月の行事から

11/11

男女が共に活躍できるまちづくり講座

次世代に「もったいない」を広めよう!
 &おさがり服の交換会

参加者数: 27人 場所: 学習研修室
 「もったいない」は、資源節約、地球環境にやさしい日本人の生活のスタイルである、ものを繰り返し使い大切にすることである。今回のまちづくり講座は、それを次世代に伝えるために、子どものおさがり服の交換会を開催して、無料で提供して喜ばれた。参加者に子ども服に関するアンケート調査も行った。



23~12/2

市民フェス 映画・ワークショップ

場所: 学習研修室

映画が4団体、ワークショップが12団体参加して盛大に開催された。(感想から)「いただきます」の映画を観て、食事の大切さ、命には限りがあることを学んだ」「家計簿をつけよう!」で、親身になってアドバイスしてもらい、これから頑張ってみようと思った」など多数。



23~12/2

市民活動・交流パネル展

場所: ふれあい交流サロン

年1回、登録団体の活動を市民の皆様に報告できる場として、それぞれ工夫を凝らしたパネルを作成して展示した。親子や友達同士でたくさんの方が見に来られ、賑わった。(感想から)「自分の知らない団体、関心を持たない内容を知ることができた」「各グループの工夫があり、とても見やすかった」など。



11/26

就労応援講座

採用につながる
 応募書類の書き方・面接講座

参加者数: 7人 場所: 学習研修室2

求職するに当たって、採用につながる自分の職務経歴書や応募書類の書き方を順序立てて学んだ。また、面接などのポイントもわかりやすく説明してもらった。質問時間を設けたが、さらに詳しく聞きたいという方は、個別に就労相談の予約を入れて帰られた。相談予約は087-833-2282へ。(参加者の感想)「とても良かった。適切なアドバイスがもらえ、役に立つ情報を得られた」「今後の就職活動の進め方がわかり、勇気づけられた」など。

トピックス

大好評だった 勝間和代さん講演会

個性を活かした男女共同参画~男女の強みを生かしあって楽しく幸せになろう~ 11月24日(土) 13:30~15:15

今年の市民フェスティバル講演会は、経済評論家の勝間和代さんをお招きして開催した。TVでの知名度があるので参加希望者が多いのは予想していたが、ふたを開けてみると予約1日目から100人の参加希望者が殺到し、人気の高さを実感した。勝間さんの歯切れが良く、わかりやすい話は、聴衆者を魅了した。

日本の男女共同参画の現状は、先進国中最下位でジェンダーギャップ指数は世界で114位。(2017年)

男女の賃金は未だ平均で女性が男性の7割という格差がある。また、指導的地位に占める女性の割合は政治分野が一番低い。こういった「日本の男女共同参画はなぜ進まないのか?」につい

て、勝間さんは、「間接差別にある」と言われた。間接差別が男女共同参画を妨げており、間接差別につながる要因を発見し、仲間をつくって協力して除いていくことが必要。自分の強みを生かして協力者を集め、一人で戦わないようにする。一人ひとりの力は小さくても、集まれば職場や地域単位の改革は可能であり、それが広がっていけば社会全体が変わる。

そのためには法制度が重要。まずは必ず投票に行く。男女を問わず多様性の推進や差別解消に熱心な人に投票する。社内でも間接差別につながる評価をなくしていくことが必要と力強く言われた。勝間さんの話に共感する人の輪がさらに広がり、男女共同参画が浸透し、誰もが住みやすい国になることを願ってやまない。

